進けくも偉大なるかなと、 とりきの手稲の峰よ かに夕陽は沈み ゆうひ

な

黄昏の山並みを愛ず山際に映えては著しいない。 稜線の美しさ永遠にりょうせん うつく

今^き 人^ひと 日⁵ の 人の世ょ 0 夢りの移名 ろ 日す は空しき いやすく

風に舞え 胸ね 人気無き小道歩かばとけな こからまる 外の日の愁いを誘う に湧け 木き 日で路に は へ飄 飄学徒 7孤高の思い 愁れ 黄 金が · を 誘う に映え

7

いざ守らむ真理の灯 ともしび

我^{わがすす} む道を照らさむ は北郷 乳斗の星か

我楡陵に清き花咲け 要若き春の旅路よ った。 ないでは、 はなさ では、 でいる。 たいと でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 思わずや遠き故郷 仰ぎ見む悠久の天

一咲け